

●ユニセフ・自然災害緊急募金にご協力ください！

＜公益財団法人 日本ユニセフ協会HPより抜粋＞

2016年3月4日にモザンビークとマラウイで熱帯低気圧として発達したサイクロン「イダイ」は、ジンバブエへと移動しながら、この地域に甚大な被害をもたらしました。

最も影響を受けたモザンビークでは、子ども100万人を含む185万人が、切実に支援を必要としています。収穫期直前の洪水により、モザンビークの例年の穀物生産量の50%までもが破壊されました。マウライでは、44万人の子どもを含む90万人が影響を受け、8万5千人以上が避難生活を余儀なくされています。

ジンバブエでは、27万人以上が影響を受け、その半数は子どもです。

また、モザンビークのソファアラ州においては、サイクロン『イダイ』が残した泥水や淀んだ水たまりが蚊の増殖に最適な環境になっていることから、1万4,800件以上のマラリアの症例が報告されています。

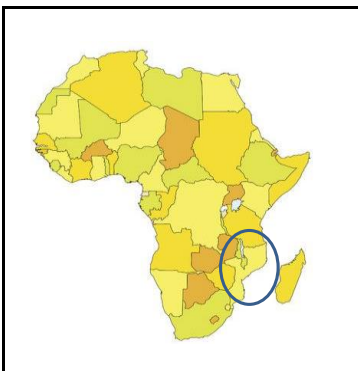
*マラリアは、世界の感染症の中でも3番目に多くの生後1カ月から5歳までの子どもの命を奪う病気です。

ユニセフ（国連児童基金）は、被災した3カ国において今後9カ月間、サイクロンによって打撃を受けた子どもたちとその家族に人道支援を提供するために1億2,200万米ドルの資金を国際社会に要請しています。

ユニセフは、影響を受けた子どもたちと家族への支援を強化し、保健ケア、水、衛生環境（トイレ）、教育などのサービスが受けられるようにするための活動をおこなっています。

2019年の目標は・・・

- ＜水と衛生＞
 - ・160万人に安全な飲み水を提供
 - ・46万7千人に安全なトイレを提供
- ＜保健＞
 - ・52万5千人の子どもがコレラや麻疹を含む予防接種を受ける
 - ・蚊帳100万張の調達
- ＜子どもの保護＞
 - ・8万人の子どもが心理社会ケアを受けて、保護者を伴わない子どもがサポートを受ける
- ＜栄養＞
 - ・39万人の子どもが重度の急性栄養不良の治療を受ける
- ＜教育＞
 - ・50万6百人の子どもが質の高い教育を受ける
- ＜その他＞
 - ・26万5千人が現金支給の支援を受ける



★サイクロン「イダイ」の被害地域



●ユニセフは、子どもたちの命綱としての役割を貫くとともに、子どもたちが未来への希望を失わないよう、安心して過ごせる環境を一日も早く整えていきます。

ユニセフ「自然災害緊急募金」にどうかご協力をお願いします。

●自然災害緊急募金の振込み先

- ・郵便局（ゆうちょ銀行）
- ・振替口座：00190-5-31000
- ・口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会
- ・通信欄に「自然災害」と明記願います。

“公益財団法人”日本ユニセフ協会への寄付金には、特定公益増進法人への寄付として、所得税、相続税、法人税の優遇措置があります。
また一部の自治体では、個人住民税の寄付金控除の対象となります。

●ユニセフ海外スタディツアーに参加

西アフリカ「ブルキナファソ」へ行ってきました(その1)

- 全国各地でユニセフへの支援の輪を拓けようと活動する地域組織協会を対象に、日本ユニセフ協会が主催するユニセフスタディツアーへ、山口県ユニセフ協会から、事務局の高木が参加しました。
やまぐちユニセフ通信秋号（No. 7）と2回に分けて、その様子を報告します。

●ブルキナファソと子どもたちについて

- ・ブルキナファソは、国土が日本の3/4程度、人口2,032万人の西アフリカにある国です。
- ・1960年、それまで植民地支配していたフランスより独立しましたが、以降繰り返されるクーデターで政情は安定せず、最近では武装勢力によるテロも頻繁に



小学校1年生の教室にて

発生しており、経済はGDPで日本の0.3%程度と、とても貧しく、様々な問題を抱えている国です。

- ・子どもたちも厳しい環境の中で暮らしており、新生児死亡率は千人当たり26人（日本1人）、5歳未満児死亡率は1,000人当たり85人（日本3人）。出生登録も77%にとどまるという状況にあります。
- ・また初等教育（小学校）修了率は63%（日本100%）、5～14歳児童の39%が労働に従事しており、十分な教育機会を与えられていません。

●ユニセフブルキナファソ事務所

- ・ユニセフブルキナファソ事務所では、このような状況の中にあるブルキナファソの子どもたちの「命」と「人権」を守る活動をおこなっています。
- ・主には以下4つのテーマ毎にチームを組み、ブルキナファソが抱える問題に対する解決・改善への取り組みを進めています。



アン又代表（仏出身）



木下副代表（日本出身）

●子どもの保護

- ・子どもや女性は伝統的に虐げられてきた歴史があり、法律により権利が保証された今も、暴力、虐待、搾取、育児放棄等の危険に晒されています。
- ・口減らしや見返りを求める児童婚、女性器割礼の問題も未だ存在します。



*事務所は約80名のスタッフで構成。国連の機関らしく、様々な国の方が働かれています。

●教育

- ・就学率は小学校で90%、中学校で52%と以前よりも高まっていますが、貧困等で途中退学する子どもも多く、修了率は小学校で63%、中学校で41%に止まります。
- ・またテロの拡大により、国内約3,000校の内、1,000～1,200の学校が閉鎖に追い込まれていることやテロ集団によるストリートチルドレンのリクルートなど、問題が深刻化しています。

●栄養

- ・ブルキナファソでは、発育阻害、消耗症、低体重、過体重など、様々な栄養失調の問題が存在します。
- ・「人生最初の1000日」の間の栄養が脳・身体の発達を左右するといわれていますが、5歳以下の子どもの4人に1人が慢性的栄養失調による発育不全の状態にあります。

●水と衛生

- ・水の供給という点では大きく改善され、現在5家庭に4家庭は清潔な水を手に入れることができるようになりました。
- ・一方、衛生面では伝統的に野外排泄がおこなわれてきた経緯があり、トイレの設置率・利用率は著しく低く、農村部では未だ10家庭中7家庭が野外排泄をおこなっています。

●ブルキナファソではユニセフの活動現場を数多く視察しましたが、紙面の関係上、本紙掲載は視察の一部となります。
県内各地で報告会も開催しますので、詳しく話を聞きたいと思われる方は是非ご参加ください！（詳細は4ページに）

■子どもの保護①ービシ採石場と相互保育施設を視察しました。

首都ワガドゥグの近郊にあるビシ採石場では砂利が生産されていますが、採掘・砕石は機械ではなく、今も人力でおこなわれています。ここで働く人々は低収入ですが、容易に現金が得られるため、小さな子どもを持つ親や自分で働く10代の少年少女も多く、危険でかつ粉塵による健康影響など、最悪の児童労働環境と言われています。



採石場の様子 深い場所から人力で運び上げる

ユニセフでは、ここで働く小さな子どもを持つ親たちが共同で運営できる保育施設の開設や運営を支援しています。

また、少年・少女たちには、小学校への修学支援や職業訓練によるこの場所での経済的自立の促進などをおこなっています。



保育施設風景ー親たちが当番で子どもたちのお世話

■子どもの保護②ー国立孤児院を視察しました。

ワガドゥグ・バドワ地区にある国立孤児院は、イタリア国際養子機構の支援のもと、政府が設立した孤児院で、捨て子、保護された子ども、虐待を受けた子ども約70人が生活しています。

ユニセフは、子どもの受け入れ支援、子どもたちの心理的な支援や家族との仲介、子どもたちの教育や職業訓練などのさまざまな支援をおこなっています。



国立孤児院の玄関ーMaternal Hotel

■教育①ー「スクール・フォー・アフリカ」募金でユニセフが支援する学校を視察しました。

世界では約6,300万人の子どもたちが小学校にも通えない状況があり、その半数以上がサハラ以南のアフリカに集中しているため、日本ユニセフではアフリカの教育環境改善を目的として『スクール・フォー・アフリカ』募金を募っています。

その募金をもとに、ユニセフは「子どもにやさしく、質の高い学校作り」を進めており、現在小学校11校、中学校5校、就業前教育センター（保育園）9校（建設・改修中含む）の支援をおこなっています。

視察に訪れたゾルゴ・アミティエー校は、幼稚園、小学校、中学校で構成される一貫校。

「子どもにやさしく、質の高い学校作り」のモデル校に位置付けられています。

近代的な校舎だけでなく外壁やトイレなどの衛生設備も整備され、「子どもを中心とした教育活動」を推進するため、スポーツ用品や学校園芸の用具なども整備されていました。

日本からの訪問に、子どもたちからたくさんの感謝の言葉と笑顔をもらいました。



民族衣装で出迎えてくれました。
アフリカ独特のカラフルな衣装が似合います。



近代的な教室で楽しく元気に授業を受ける子どもたち。
ブルキナファソでは小学校も卒業試験があります。



右上：幼稚園の教室と先生 午後からの訪問のため、園児は帰宅したとの話でしたが、校庭で遊んでる園児を見つけ記念写真

○ 今後もさまざまなイベント会場でユニセフコーナーを出展します。是非ともお立ち寄りください！
また、今年2月に事務局が参加したフルキナファノスタテイツアーの視察報告を、今後できるだけ開催していく予定です。なかなか聞けない貴重なお話しですのでお話しを聞かれない方はお声かけください。お待ちしております。

● ユニセフ活動紹介コーナー出展予定

●日時：6月16日(日) 13:00～16:30
●場所：海峡メッセ下関 9階 海峡ホール（下関市豊前町3丁目3-1）
●企画：JICA中国(山口県JICAデスク)さま主催「なるほど!新発見! AFRICAの世界」のイベントに出展します。
ユニセフパネル・フルキナファノ写真展示・DVD上映・関連グッズの紹介とユニセフクイズにチャレンジ!

●日時：6月30日(日) 13:00～16:30
●場所：山口大学吉田キャンパス 共通教育棟 24番教室
●企画：山口大学七夕祭に出展
昨年に引き続き今年も七夕祭に参加出展します。ワークショップでは七夕飾りをつくります。皆さんでメッセージを書いた短冊を飾ってください!



昨年、山口大学七夕祭出展の様子

● ユニセフパネル展開催

●日時：7月24日(水)～7月28日(日) 開館時間に合わせて
●場所：宇部市立図書館 〒755-0033 宇部市琴芝町一丁目1番33号
●企画：パネル展示

「ユニセフによる戦後日本子どもたちへの支援」

ユニセフは第二次世界大戦後15年間にわたり、日本の子どもたちのために支援を続けました。
支援物資の粉ミルクや原綿が届き、給食や衣料が提供され喜び子どもたちの姿、
ユニセフの支援に感謝する会を催している風景、乳児健診など医療面の支援など、当時の写真からは、
今につながるユニセフの自立を目指した支援の様子が伝わります。

「アグネス大使シリア周辺国訪問 シリア難民の子どもたちを「失われた世代」にしないために」

6年にわたり内線が続くシリア。大きな苦境に立たされるシリア周辺国の地元政府やユニセフによる
「失われた世代」を作らないための取り組みを取材。



昨年、開催の様子

賛助会員募集してます!

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助
会費によって支援いただく方法です。
現在山口県でも多くの賛助会員の方にご協力いた
だいています。

山口から世界の子どもたちを支えましょう!

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生(18歳以上)	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は
寄付金控除の対象になります。
一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限らせて
いただきます。

いつでもボランティア大歓迎!!

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろん
あなたの好きなことをユニセフ活動にいかして
みませんか?

- ♪ 絵や文章を書くのが好きな方
- ♪ 子どもが好きな方
- ♪ 手作りするのが好きな方
- ♪ パソコンが得意な方
- ♪ 学習会の組み立てを一緒に考えてくれる方
などなど



山口県ユニセフ協会

〒753-0083
山口市後河原210番地
TEL083-902-2266
FAX083-928-5416
E-mail: info@unicef-yamaguchi.jp
URL: https://www.unicef-yamaguchi.jp

県協会地図



ボランティア登録、資料請求、その他
お問い合わせ等は、事務局までご連絡
ください。
また、どなたでもお気軽にお立ち寄り
ください。
受付日：月・火・水・木・金
受付時間：10:00～16:00
山口県教育会館の裏になります。